

自然界を見るとよくわかります。常に拡大して増え続けるものなんてありません。

この仕組みを変えるために、至る所にある「構造的な暴力」をひっくり返して、「構造的な平和」を作っていく必要があります。

「構造的な平和」の仕組みというのは、それが出来るかと、そこに関わった人たちは、「世界を平和にしよう」なんて思ってもいないのに、結果として、「あれ？ 平和になっちゃった」という状態になってしまいう仕組みです。そんな仕組みをどんどん作っていきたく思っています。



もう一つ、今の資本主義の仕組みだと、人々は本当の意味で幸せなのかという問題があります。

日本では、年間の自殺者が3万人を超えろという状況が1998年から14年も続いていました。しかも、実数はもっと多いといわれています。

理由はさまざまだと思いますが、多くの人は生きることには希望を持ってずに自殺しています。

お金が増えて、物が増えて、幸せになるはずなのに、実際はどうやら違うらしい、という状況です。

現代社会の問題というのは、本当にたくさんあります。

そこから抜け出すには、別の考え方や別の意識で、今とは異なる別の現実を作っていく必要があると思っんです。

それが今、赤村でスローな暮らしをしている理由の一つです。

「経済成長ありき」の考え方が大半を占めているこの世の中で、同じ考え方の枠組みで問題を解決しようと思っても、問題を解決することはできません。違う考え方、ものの見方をしていかなければいけないと思っんです。

典型的で分かりやすいのが原発事故です。大問題になったのに、原発稼働につながっている自分たちの暮らしのあり方は見直さずに、「メガソーラーを作ろう！」などと短絡的に考えて動いている方々が非常に多いです。

原発を止めると電気が足りなくなるからメガソーラーを作って補おうとしているわけです。

まずは自分たちの暮らしを見つめ直して、現状の仕組みから抜け出し、考え方も変えていく必要があると思っんです。



資本主義というシステムが世界的に広まったのはせいぜいここ2000年の歴史にすぎません。

その仕組みで今までやってきたけれど、貧困はなくならない、幸せな人は増えない、一部の人は幸せになれない、ということが分かってきました。

もうそろそろ、これ、終わりにしませんか？
こういう話をすると、

これまでは多くの人が、「理想はそうだけれど…」という反応でした。

でも、今はだいたい変わってきていて、「早く次の仕組みを作っていかなきゃいけない」と思っって行動に移される方が増えてきています。

ぜひ、新しい仕組みをつくっていきましょう。

(宮崎市で開催されたお話し会より)

「ことう・あきら」東京都出身。大学と大学院で社会科学の研究に没頭。その後、営業の仕事で2年近く、日本の農山村を回り、食文化・農的営み・自然など農村の魅力に魅せられ、「自然の近くで生きていきたい」と思っようになり、縁あって福岡県赤村へ移住。自然と暮らしから学び、低支出&シンブルで満ち足りた生き方を実践中。冷蔵庫なし、薪風呂、薪ストーブ、井戸水という暮らし。米と野菜の自給率は8割近い。味噌・梅干し・麴・酢・切干大根・納豆なども手作りしている。廃油を加工して燃料を手作りし、車に使用。自然から学んだことなどを統合して、本質的な学びの場を展開中。